

## フィールド・ワーク体験と異文化理解の推進

### 背景・目的

本学科は、教育の一環として、海外での実習をおこなってきた。本年度の実習は、2012年12月13日～29日に、インドの首都であるデリー、ウッタル・プラデーシュ州にあるヒन्दゥー教の聖地ヴァラナシという異なる文化背景をもつ2つの都市で調査実習をおこない、実践的な異文化理解をめざした。調査実習では、現地の人々との交流や体験、フィールド・ワークをとおして、インドの文化や社会についての理解をより深めることができるだけでなく、考える力を身につけ、様々な状況への適応力や他者とのコミュニケーション能力を養うことも可能となり、参加者自身のキャリア形成にもつながることを目的としておこなった。

### 実施内容

実習では、20名の参加学生が7つのグループに分かれ、結婚観、子育て、宗教、食文化、環境、観光、色彩など興味あるテーマを設定し、アンケート作成やインタビュー内容の準備や調査地について事前学習し、それをもとに、デリーとヴァラナシで、インタビューやアンケート調査をおこなった。



最初に、デリーで、J.N.U. 大学日本語学科のプレーム・モトワニ教授に、「インドの現代文化」に関する講義を受けた。また、デリーでは、J.N.U. 大学の日本語学科、ヴァラナシでは、B.H.U 大学

の日本語コースの学生たちに、チューターとして調査補助をしてもらい、同世代の大学生として、さまざまな面で交流をはかった。さらに、イスラム教の聖廟タージ・マハルのあるアグラ、ラジャスターン州の州都であり、藩王国の中心地であったジャイプールの街を訪れ、奥深い歴史や文化に触れることができた。

### 結果及び考察

本実習の成果は、第1に、参加学生のコミュニケーション能力があがったことである。最初は戸惑っていた学生も、調査実習をつうじて、インドの人々に積極的に英語やヒンディー語で話しかけるようになり、着実に対話力が向上し、状況への適応力も身についた。第2に、現地でのフィールド・ワークをとおして、南アジアの文化や社会に関する実践的な異文化理解がすすんだことである。成果については、現在、詳細な報告書を作成中である。また、実習をつうじ、国を越えての同世代の学生との交流が深まり、帰国後もメール等で交流が続いている。今後、これらの体験が、学生自身のキャリア形成につながることを期待したい。

